研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

申請番号： 19-196

① 試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名：非経口摂取の気管切開患者におけるOAG評価を用いた口腔内環境の実態調査について

・目的：

口腔の健康は全身の健康の維持、増進にとって極めて重要であり、吉岡らは、口腔衛生状態の悪化は呼吸器感染症のリスク因子となり、感染に対する防御反応の低下した重症患者における口腔衛生管理は全身管理の上からも重要である。[1)] と述べている。また、青木らは、オーラルケアは、口腔内を清潔に保つことにより、誤嚥による細菌性肺炎の予防に役立つと考えられているが、それ以外にも摂食嚥下の機能維持とリハビリテーションなど、生活の質（quality of life:QOL）の維持向上にも不可欠といわれている。[2)] と述べており、口腔ケアは重要なケアとして位置付けられている。

当院でも、平成30年12月より口腔ケアリンクナースが中心となり、口腔アセスメントガイド（Oral Assessment Guide:以下OAGとする）の評価を開始し、口腔ケアへの取り組みがより具体的になってきている。

急性期病棟である当病棟では、高齢で日常生活自立度（Activities of Daily Living:以下ADLとする）が低下して、食事や排泄などに介助、あるいは全介助が必要な患者が多い傾向である。さらに気管切開を施行し人工呼吸器管理が必要な患者も多く在室しており、これらの患者に対し日々口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。日本訪問歯科協会では、経管栄養投与中は自浄作用の低下や咀嚼嚥下機能の低下、経鼻胃管の汚染により、口腔内が汚染しやすくなり、さらに誤嚥性肺炎のリスクが高まると述べている。[3)] 当病棟でも、特に経口摂取をしていない気管切開患者で、セルフケア能力の低下や咀嚼嚥下機能の低下により自浄作用が低下し口腔内環境の悪化が顕著にみられている傾向がある。先行研究においても、気管切開患者のOAG評価を用いた研究は乏しいため、口腔内環境が悪化しやすい気管切開患者に的を絞り、入室時と1週間後のOAGのデータを集計・比較し、具体的にOAGのどの項目が悪化しやすいのか明らかにする。そのデータをもとに当病棟で実施されている口腔ケア方法を見直し、病棟全体で共有していくことによって、口腔ケア方法の統一化や看護師の口腔ケアの質の向上に繋がると考える。

・研究期間：2019年10月2日～2020年3月30日

・研究対象：2018年12月19日～2019年7月19日

② 利用し、又は提供する試料・情報の項目

：なし

③ 利用する者の範囲

：A棟1階病棟　妙中　亮太

④ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

：A棟1階病棟　妙中　亮太